

SDカード録画カメラ
防犯カメラ 設置工事編
ES-CD137SW/C



工コの見点より、本書は1回のお買い上げに付き

1部のみ同梱（複数台お買い上げの場合でも）
させていただきます。

取扱説明書

最新更新日：2021年5月
第1版

本機カメラ説明書のうち、各種設定・録画映像再生など
パソコンで行う運用ソフトについての説明は、別紙説明書
【パソコンアクセス操作編】をご覧ください。



説明書ダウンロード
URLのQRコード

●本書対応のカメラ型番●

ES-CD137SW/C



この度は当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

当取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にご使用下さい。

取扱説明書内に記載しております、電気安全事項は遵守して下さいますよう、お願い申し上げます。

この取扱説明書は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

目 次

1. 安全上のご注意（必ずお守りください）	4
2. 免責事項	4
3. 同梱付属品	5
4. 商品概要	5
5. microSDカードについて	6
6. 各部の名前と機能	7
7. microSDカードの挿入・録画開始・取出し方法	10
8. USB変換アダプタの使用方法	12
9. いろいろな接続・配線方法	13
配線・接続例1（初心者の方向け）	13
配線・接続例2（パソコン常時接続）	13
配線・接続例3（中級者・PoE式）	14
配線・接続例4（中級者・PoEハブ）	14
配線・接続例モニタリング例1（テレビで見るとは）	15
配線・接続例モニタリング例2（テレビで見るとは）	15
10. 設置工事・準備編1（カメラの設置場所について）	16
11. 設置工事・準備編2（監視目安距離）	18
12. 設置工事・準備編3（赤外線LEDと投射距離）	19
13. 設置工事・準備編4（動体検知距離）	20
14. 設置工事・準備編5（配線で天井裏隠ぺい配線が露出配線かの検討）	22
15. 設置工事・カメラ取付編	23
16. 設置工事・コネクタ関係の接続編	25
17. 設置工事・カメラ取付編（ブルボックスを使用した施工方法）	27
18. 日頃のメンテナンスについて	30
19. 外観寸法	31
20. 機器仕様	32

1. 安全上のご注意（必ずお守りください）



警告事項

- ① 設置工事は電源工事が必要な場合もありますので、工事業者が行ってください。
- ② 異常が見られた場合には、全ての電源（コンセントを抜く等）を遮断して触れないようにしてください。放って置きますと、火災の原因になります。
- ③ 分解しないでください。機器内部に人体が触れますと感電する可能性があります。
- ④ 水気・湿気・振動の多い場所に置かないでください。
- ⑤ 濡れた手で触れないでください。感電・火災の原因になります。
- ⑥ 不安定・転倒の恐れがある場所へは設置しないでください。
- ⑦ 雷の際の工事は直ちに中止してください。また配線の一切に触れないでください。
- ⑧ コード・ケーブル類の破損の恐れがある場所への配線は避けてください。
- ⑨ 電源プラグは確実に差し込んでください。また定期的にプラグの清掃をお願い致します。
- ⑩ 静電気には十分気を付けてください。特に冬季は故障の可能性が高くなる要因になります。



禁止事項

- ① 専用アダプタへの電源は必ず A C 1 0 0 V を接続してください。
- ② 機器へは必ず決められた電源を供給してください。
- ③ ケーブル類は必ず決められた太さのケーブルを使用してください。感電・火災の原因になります。
- ④ 仕様表に基づく使用環境を遵守してください。
- ⑤ 記録媒体組込製品の為、震動・衝撃を与えないでください。

2. 免責事項

何らかの原因で機器に異常が見られ、その異常に伴い記録内容が消去・破壊されてしまう場合があります。この場合の損失・損害に等に関しては免責とさせていただきます。
また、この場合の記録内容の復旧・復元は行っておりませんので併せてご了承ください。

3. 同梱付属品

① 本機	1 台	
② ACアダプタ (DC12V1A出力)	1 台	
③ microSDカード32GB	1 枚	※ 増強オプションにより差替え可能 (64GB,128GB)
④ 屋内用取付ビス	3 本	※ 屋外で使う場合はステンレスへ変更してください。
⑤ ドームカバー用ドライバー	1 本	
⑥ 説明書 (設置工事編)	1 冊	
⑦ 説明書 (パソコンアクセス操作編)	1 冊	
⑧ 専用ソフトダウンロード案内	1 通	
⑨ 製品保証書	1 通	



ご注意

microSDカードは消耗品です。microSDカードの保証期間は保証書記載の期間と同様です。

保証期間を過ぎましたら、microSDカードは交換をお勧め致します。

保証期間を過ぎてご利用を継続すると正常に録画出来ない場合があります。

4. 商品概要

本機はmicroSDカードで録画出来る録画機能一体型カメラです。

本機設定あるいはモニタリングはパソコンをLANで接続して専用ソフトで行います。

当然ネットワークカメラと同様に扱えますので、LANアクセスは勿論外出先からのWANアクセスも可能です。

本機機能概要は以下の通りです。

- 最大200万画素でライブ映像出力・録画が可能。
- 録画映像はmicroSDカードを付属品のアダプタでパソコンに接続して閲覧可能。
- microSDカードは最大128GBまで対応 (標準付属品32GB)。
- 映像に何か動きがあった場合のみ録画する動体検知録画機能搭載。
- 夜間 (照明がまったくない空間でも可) で白黒モードで被写体を捉える暗視機能搭載。
- 1週間で録画する曜日・時間を設定できるスケジュール録画機能搭載。
- 筒型・ドーム型共に屋外 (防塵防雨) ・屋内設置可能。
- ネットワーク接続を行えば外出先から監視可能 (iPhone・Androido対応)。
- Windows7,8,10対応。

5. microSDカードについて

本機対応microSDカード（microSDXC：本書では「microSDカード」と明記）ですが、推奨として

メーカー：SanDisk, TOSHIBA, Kingston, BUFFALO, ELCOM, GIGASTONE
他弊社が推奨するメーカー（同梱したmicroSDカードはすべて適合品です）
容量：32, 64, 128GB
クラス：CLASS10

です。

またSDカードの**出荷時期により**、右写真のようにカードアダプタが
付属しております。

お客様にてご調達されたmicroSDカードについては一切の動作保証は致しません。
また、microSDカードは消耗品です。
保証書記載の保証期間内で1回の交換をお勧め致します。
それを過ぎますと、録画が出来なくなる状況が発生する場合があります。



カードアダプタ



ご注意

microSDカードは消耗品です。microSDカードの保証期間は保証書記載の
期間と同様です。

保証期間を過ぎましたら、microSDカードは交換をお勧め致します。

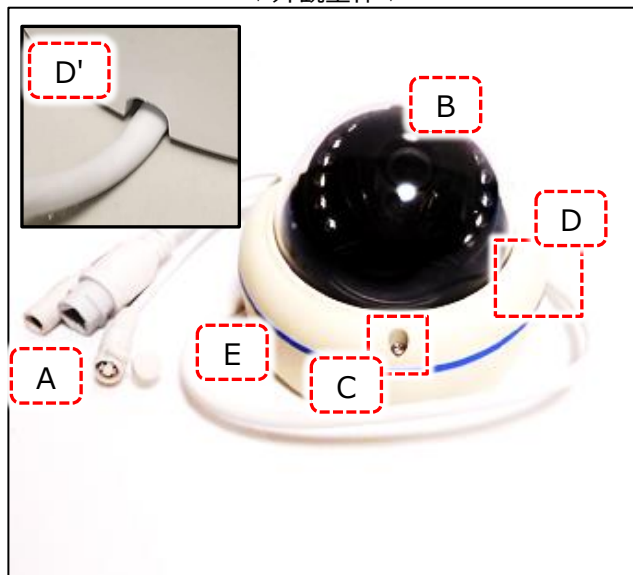
保証期間を過ぎてご利用を継続すると正常に録画出来ない場合があります。

出荷時設定の場合、SDを本機に挿し込んだ
60秒後より録画を自動的に開始します。

6. 各部の名前と機能

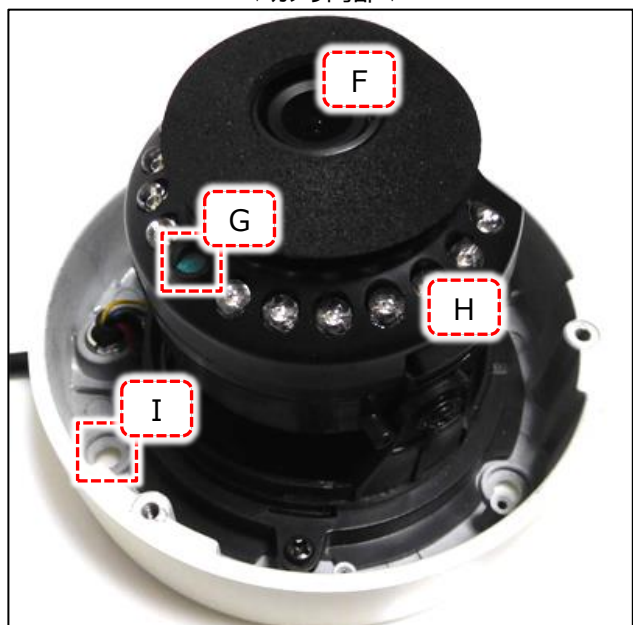
① 本体

▼外観全体▼



- [A] : 【P9】-「②コネクタ部」
ご覧ください。
- [B] : カバー部（プラスチックカバー）
- [C] : カバー止めビス部（合計3点）
（いたずら防止ネジ）
- [D] : 露出配線+天井設置時
ケーブル入線スペース
拡大写真：D'
- [E] : 本機ベース部（本体部）

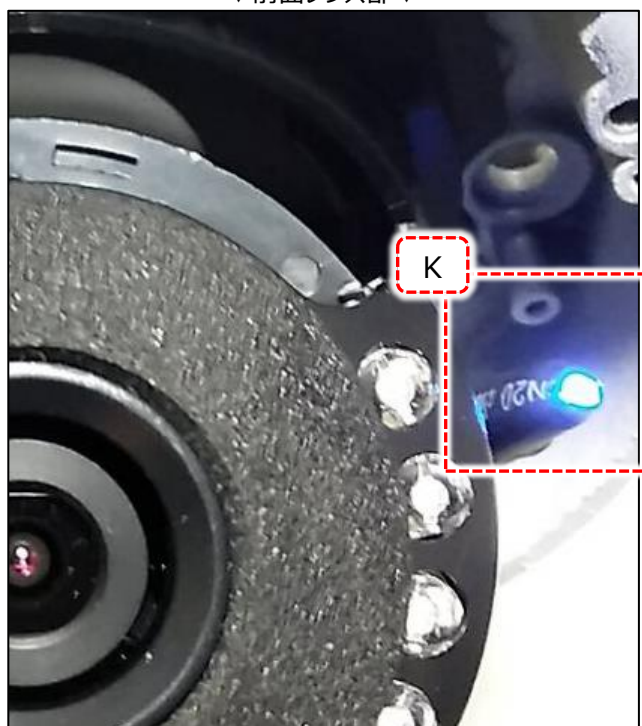
▼カメラ内部▼



- [F] : レンズ部
- [G] : 赤外線センサー部
（センサーが暗いと判断した場合、
[H]のLED部点灯）
- [H] : 赤外線LED部
（暗視用として）
照射強度調整が可能です。
【P77】-「Exposure（赤外線強度
調整）」をご覧ください。
- [I] : 設置時ビス穴
（合計3個あります）
- [J] : microSDカード挿入部

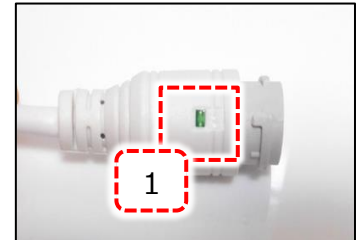
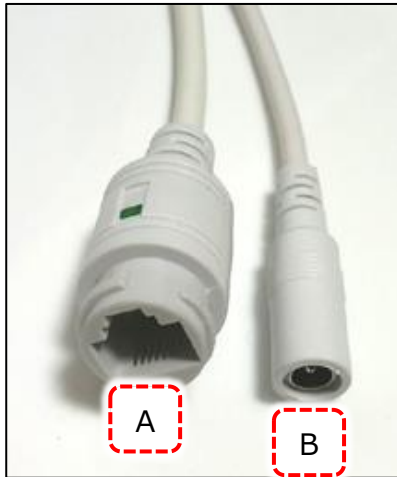


▼前面レンズ部▼



[K] : 電源供給中ブルー点滅LED
本機に電源供給されている場合
ブルー色で点滅します。

② コネクタ部



出荷時は空のLANコネクタがカバーとして挿し込んでいます。
本設後もここを使用しない場合はホコリ防止で挿し込んでおいてください。

[A] : LANコネクタ (RJ-45)
LANケーブルを接続します。
この中で、

[1] : 「アクセスLED」で本機が他のネットワーク機器（パソコン・ハブ等）に接続した場合、緑色に点滅します。



但し、PoE機器を単独で接続しても[1]は点灯しません。
パソコンなどの端末機器を接続を行った後、点灯します。
ご注意

[B] : 電源コネクタ

ACアダプタからのDC12V電源入力用コネクタです。
コネクタ形状は防犯カメラ機器汎用の、

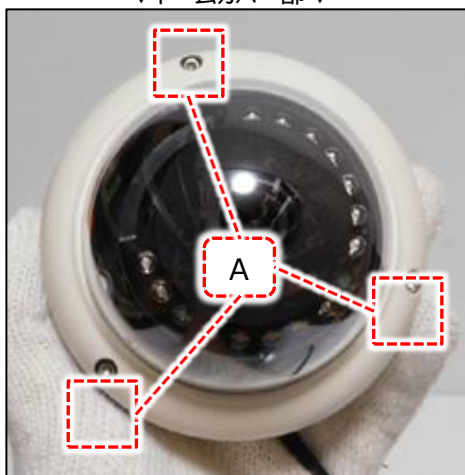
丸型コネクタ（外径5.5mm/内径2.1mm）

です。

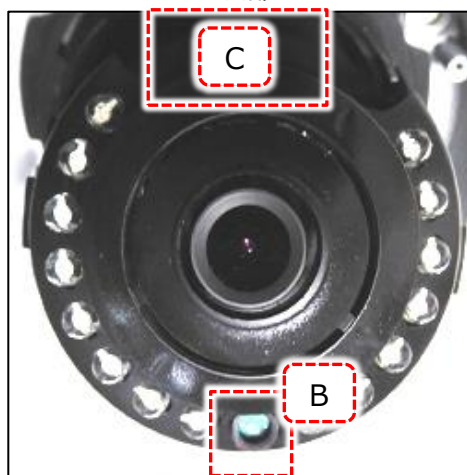
※ 電源入力がPoE給電とアダプタからのDC12V電源両方接続されたとしても問題はありません。
両方接続された場合、PoE給電が優先されます。

7. microSDカードの挿入・録画開始・取出し方法

▼ドームカバー部▼



▼レンズ部▼



●本機へのmicroSDカードの挿入方法

- 手順 1 : [A]部3点のいたずら防止ネジを付属の同ドライバーで緩めてカバーを外します。

▼ドライバーの名称

トルクスドライバーCR-V T10 3mmチップ

ネジ側も特殊形状で通常のドライバーでは開ける事が出来ません。

- 手順 2 : [B]部のセンサー部を下にしたとき、SDカード挿入部は[C]部を覗き込む形で見えます。手が入らない場合は、レンズ部全体を手で持って下げる事が出来ます。



- 手順 3 : [D]部が挿入部です。
[E]のmicroSDカードを
写真の方向で[D]部に挿し込
みます。

SDカード読込部（金属露出
部）をレンズ側・カメラ前面側

SDカード表示部をカメラ後方
側（取付面側）

に向けて挿し込みます。
挿し込むと一度SDカードが
止まりますので再度指で押し
込むと「カチャ」と音が鳴って
SDカードが固定されます。

出荷時設定の場合、SDを本機に
挿し込んだ60秒後より録画を自動的に
開始します。

●本機からmicroSDカードを抜きだす方法

抜き出す方法は、上記手順の逆の作業になります。

- 手順 1 : 本機内部のSDカード挿入部
のSDカードを一度指で押し込
みます。
「カチャ」と音が鳴って少しSD
カードが浮きます。

- 手順 2 : それを指で摘まんで取出します。

8. USB変換アダプタの使用方法

microSDカードをパソコンに接続する場合は、別売のUSB変換アダプタを使用します。
使用方法は以下の通りです。

●SDカードのパソコンへの接続方法

▼STEP1



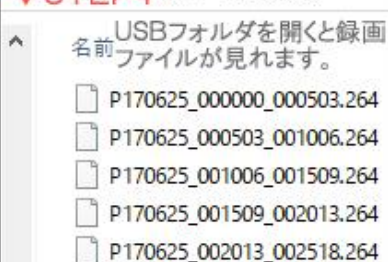
▼STEP2



▼STEP3



▼STEP4



録画タイムがそのままファイル名なので見ただ目で検索し易くなっています。ファイルは約10分録画刻みの連続です。

カバーを回転させます。

▼STEP5

再生は付属のH264再生ソフトで行います。関連付けを行なって置けば、ファイルをWクリックするだけで再生可能です。何かあった場面（一部始終）を WindowsMediaPlayerで再生出来るファイル形式への変換も可能です。

9. いろいろな接続・配線方法

以下、配線例を説明します。

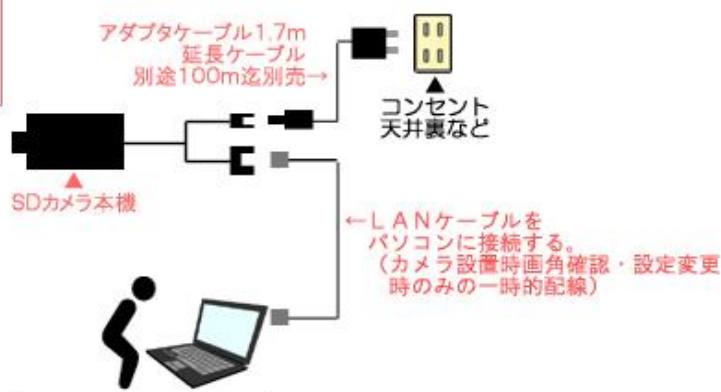
●配線・接続例1（初心者の方向け）

もっとも標準な電源供給方式です。カメラ直近にコンセントが必要

同梱付属のアダプタで電源を供給します。初心者の方には一番簡易的でお勧めです。

microSDカードに録画された映像は、カメラから抜き取って、お手持ちのパソコンまで持って行き、同梱のUSB変換アダプタを経由でパソコンに接続して見る事が出来ます。

LANケーブル・アダプタは付属



カメラ設置時画角確認・設定変更等のみに、別売のLANケーブルでPCを接続する。

●配線・接続例2（パソコン常時接続）

もっとも標準的な電源供給方式+お手持ちのパソコンへ接続・監視

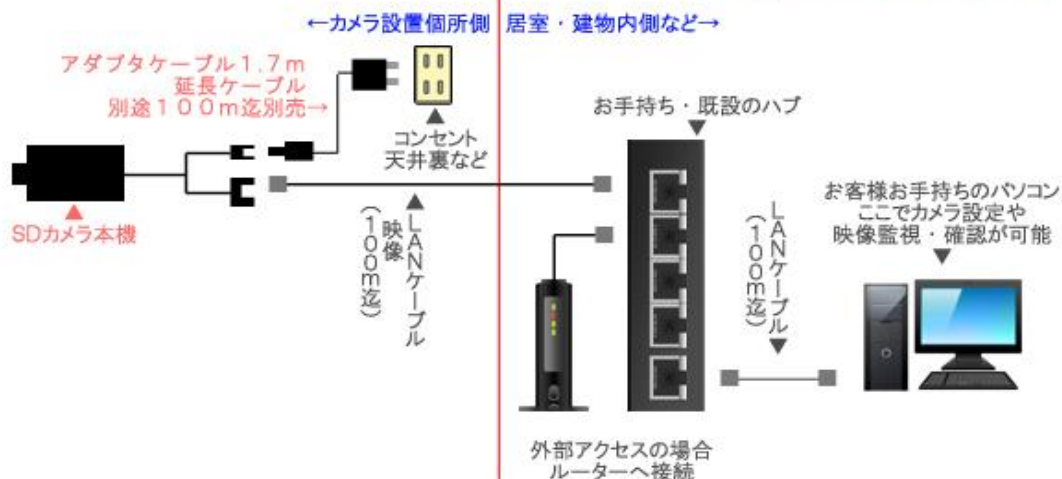
同梱付属のアダプタで電源を供給します。LANケーブルの敷設は

①カメラ設置時画角確認・設定変更等のみに、同梱付属のLANケーブルでPCを接続する。

②LANケーブルを常設でパソコン接続する。

の2通りです。

LANケーブル別売・アダプタは付属



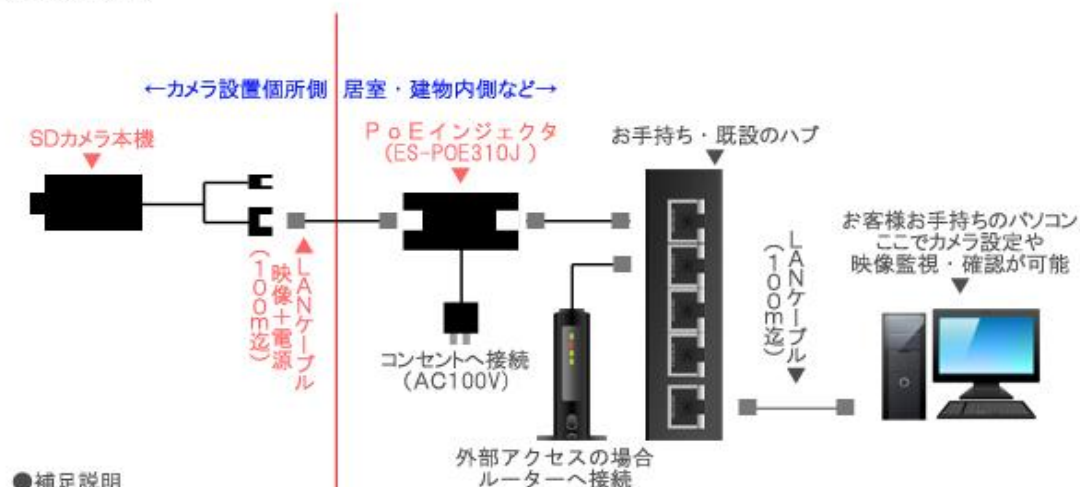
●配線・接続例3（中級者・PoE式）

SDカメラ1台設置・電源は部屋・宅内からPoEインジェクタで行う方式

PoEとはLANケーブル1本で「映像・電源」をやり取りする方式です。

下記のようにパソコン・カメラを繋ぐ場合は、LANケーブル1本ですっきりした配線方式です。

- ・カメラ1台なら下記**PoEインジェクタ**
- ・カメラ複数台の場合は下記のように**PoEハブ**（「配線・接続例4」ご参照）をご利用ください。



●補足説明

- ①設定・映像確認のみで通常パソコン接続なしでも運用可能です。
- ②PoEインジェクタのカメラ接続可能台数は1台です。

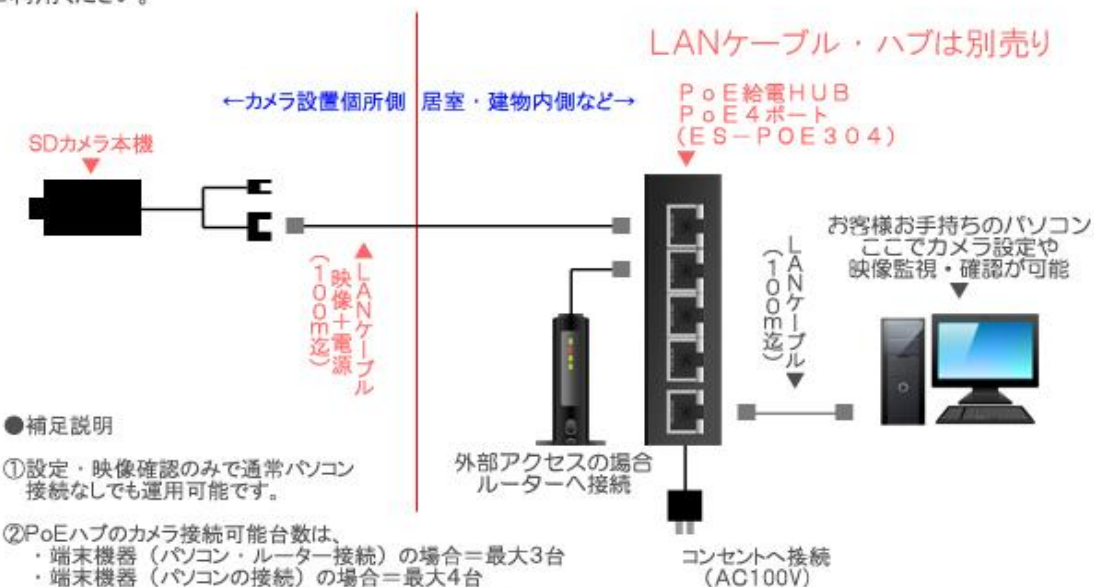
●配線・接続例4（中級者・PoEハブ）

SDカメラ複数台設置・電源は部屋・宅内からPoEハブで行う方式

PoEとはLANケーブル1本で「映像・電源」をやり取りする方式です。

下記のようにパソコン・カメラを繋ぐ場合は、LANケーブル1本ですっきりした配線方式です。

- ・カメラ1台なら**PoEインジェクタ**（「配線・接続例3」ご参照）
- ・カメラ複数台の場合は下記のように**PoEハブ**をご利用ください。



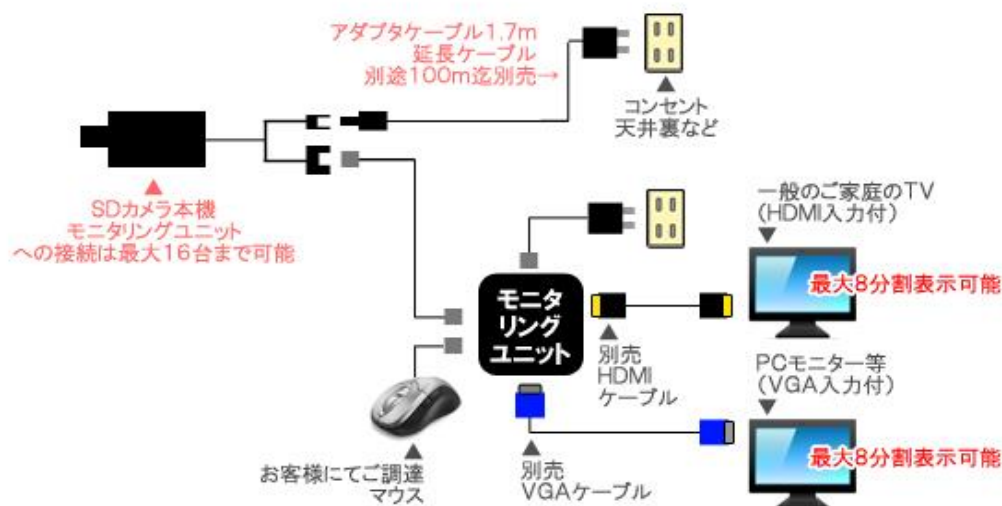
●補足説明

- ①設定・映像確認のみで通常パソコン接続なしでも運用可能です。
- ②PoEハブのカメラ接続可能台数は、
 - ・端末機器（パソコン・ルーター接続）の場合＝最大3台
 - ・端末機器（パソコンの接続）の場合＝最大4台
 - ・端末機器（パソコン・ルーター接続なし）＝最大4台

●モニタリング配線例1(テレビで見るには)

別売の専用モニタリングユニットを使えば、HDMI付の一般のTVでモニタリング可

別売・モニタリングユニット型番 (ES-MT716N) を使用します。

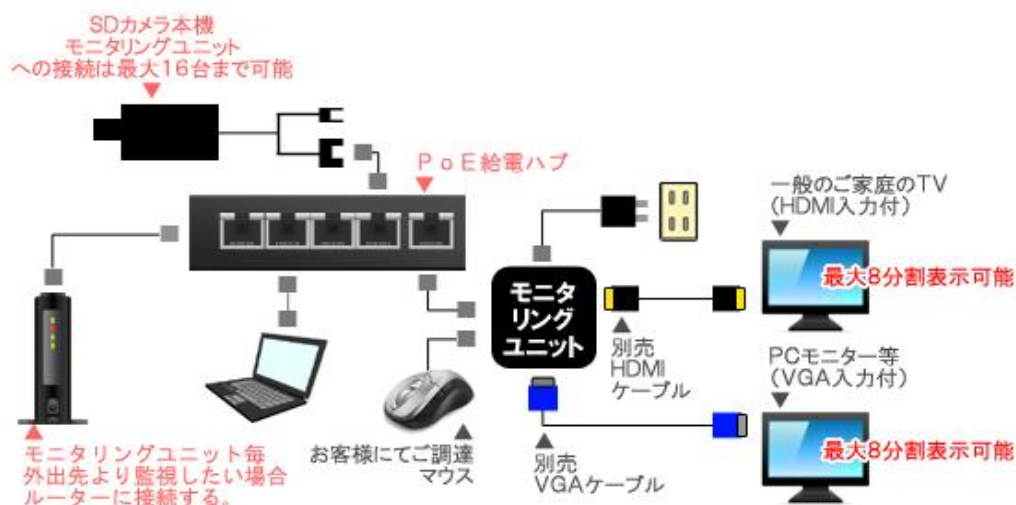


モニタリングユニット (ES-MT716N) にて、接続しているSDカメラのIPアドレスとの紐付設定を行います。自動検索設定がありますので、モニタリングユニットの設定はかんたんです。モニタリングユニットに接続できるSDカメラは最大16台で、16分割表示可能です。

●モニタリング配線例2(テレビで見るには)

別売の専用モニタリングユニットを使えば、HDMI付の一般のTVでモニタリング可

別売・モニタリングユニット型番 (ES-MT716N) を使用します。



モニタリングユニット (ES-MT716N) にて、接続しているSDカメラのIPアドレスとの紐付設定を行います。自動検索設定がありますので、モニタリングユニットの設定はかんたんです。モニタリングユニットに接続できるSDカメラは最大16台で、16分割表示可能です。

10. 設置工事・準備編1（カメラの設置場所について）



複数の項目で設置条件や注意点を記載しておりますが、ポイントとしては本項はさっと目を通すに留めてあとは本設前に、仮に本機を手で持って設置デモ（確認）を行い、弊害がなければ本設というポイント 流れが一番円滑に設置工事が進みます。

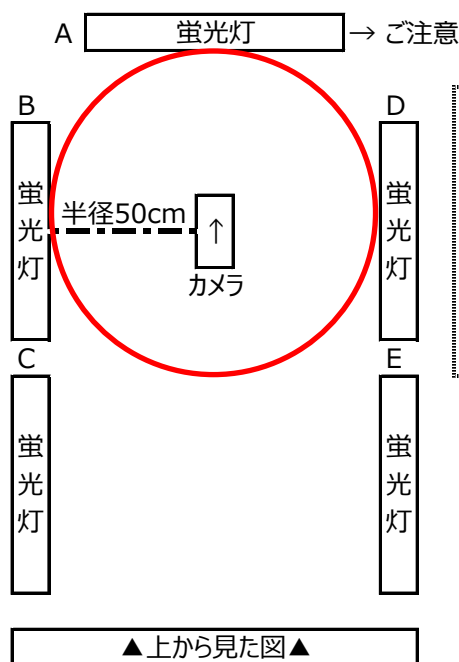
本機は設置する周囲の環境により、設置可能・設置禁止場所があります。

① 設置可能場所

- 屋外（雨晒し環境可能）
- 屋内（粉塵が多い場所も可能）

② 設置不可場所

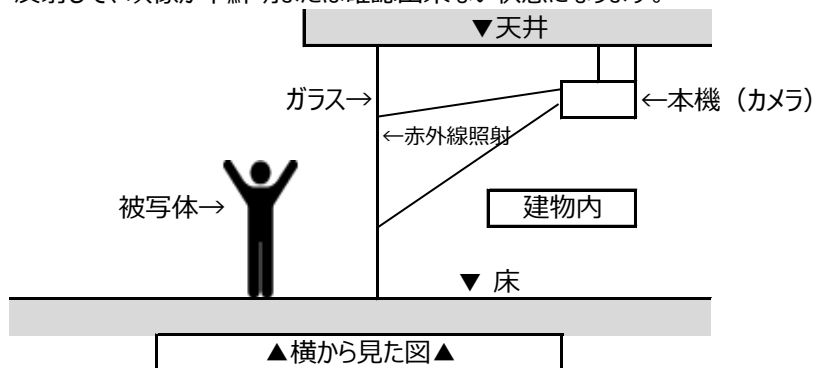
- 設置個所気温が「0℃以下」「40℃以上」になる環境。
- 湿度が「90%以上」になる環境。または通常使用環境範囲を明らかに逸脱している環境。
- 冷凍庫、サウナ、スチーム室、浴室など上記・禁止気温及び湿度になる可能性がある場所。
- 海水が直接かかるような場所（本機は塩害仕様ではありません）。
- 本機設置個所が照明機器（蛍光灯・水銀灯など）との間隔が50cm以内になるような場所。
（照明機器とは50cm以上離して設置してください。映像上に発生するノイズの原因になります）



ご注意

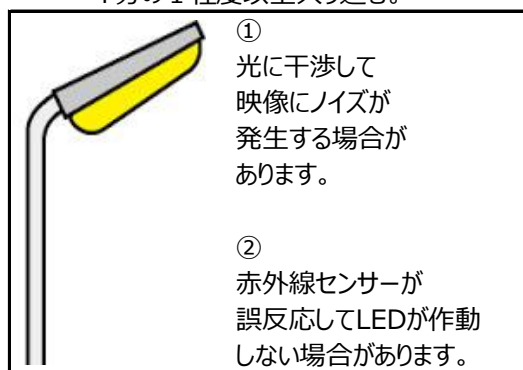
左図は、カメラから規定距離50cm離していますので原則、問題ありません。
しかし、Aの蛍光灯の場合は本機に対して光のカーテンになっている状態を映している事になります。
これは蛍光灯の明るさによりハレーションを起こす場合がありますので予め、本設前にテストを行ってください。

- 禁止ではありませんが、以下の設置環境且つ赤外線LEDが作動（点灯）した場合、赤外線LEDがガラスに反射して、映像が不鮮明または確認出来ない状態になります。



- ライブ映像の中に照明の光源が入りそうな場所。

例 1： ライブ映像上に外灯光源部分が
4 分の 1 程度以上入り込む。



例 2： ライブ映像上に外灯光源部分が
ライブ映像中心に来る場合。



共通事項ですが、映像上に1点光が強い点があると
周りの被写体が黒くなる特性があります。



ご注意

設置後は必ず本機の映像を確認してください。
映像は、

- 赤外線暗視LEDが作動していない日中の映像
- 赤外線暗視LEDが作動している夜間の映像

の 2 点を必ず確認してください。
鮮明ではない、またはイメージと異なる場合は、
本機設置位置の再検討をしてください。

11. 設置工事・準備編2（監視目安距離）



複数の項目で設置条件や注意点を記載しておりますが、ポイントとしては本項はさっと目を通すに留めてあとは本設前に、仮に本機を手で持って設置デモ（確認）を行い、弊害がなければ本設というポイント 流れが一番円滑に設置工事が進みます。

本機は監視距離目安（カメラ設置位置からメインとなる被写体までの距離）を2m～5mとしています。これは、防犯カメラで詳細情報（人物の顔、車両ナンバー等）が本機で詳細に識別出来る可能な距離になります。当然、被写体が遠くに行けば行く程小さくなり、詳細情報が識別出来にくくなります。これらを参考に、カメラ設置位置を決めてください。

※ 赤外線暗視LEDの投射距離については、
【P19】-「12. 設置工事・準備編 3（赤外線LEDと投射距離）」をご覧ください。

ある程度の位置の検討が終わったら今度は実際に、手で持ちながらモニタリングを行い、最終的に本設位置を決めてください。

また、動体検知録画も動体を検知出来る距離がありますので、
【P20】-「13. 設置工事・準備編 4（動体検知距離）」を参考に本機設置位置を決めてください。

12. 設置工事・準備編3（赤外線LEDと投射距離）



複数の項目で設置条件や注意点を記載しておりますが、ポイントとしては本項はさっと目を通すに留めてあとは本設前に、仮に本機を手で持って設置デモ（確認）を行い、弊害がなければ本設というポイント 流れが一番円滑に設置工事が進みます。

本機は周辺が暗くなるとレンズ部周辺の赤外線LEDが作動して、照明がない場所でも被写体を白黒で映し出す事が出来ます。

但し、以下の付帯条件があります。

① 赤外線LEDの照射距離目安は、

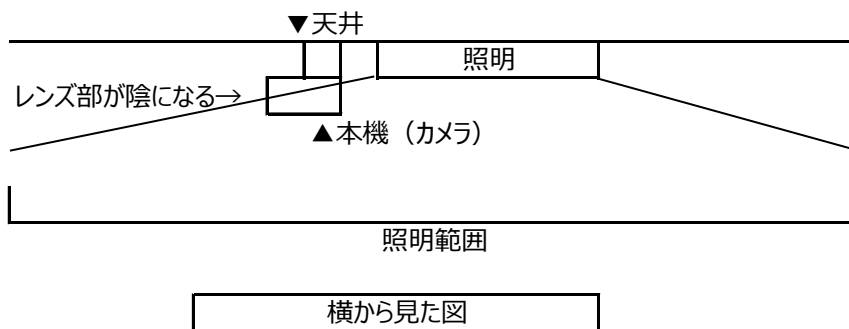
- 本機 15m

です。

② 映像で捉える事の出来る条件は、上記照射距離内に被写体がある場合で、本機から照射する赤外線が被写体が浴る事が必須です。
従って、照射距離外または赤外線を浴びる事が出来ない空間（景色など）は捉える事が出来ません。

③ 禁止ではありませんが、本機前面にガラスなどの反射する要素がある場合で赤外線LEDが作動（点灯）した場合、赤外線LEDがガラスに反射して、映像が不鮮明または確認出来ない状態になります。
【P17】-「▲横から見た図▲」をご覧ください。

④ 明るい場所でも以下のような条件の場合、赤外線LEDが作動して映像が白黒になる場合があります。



⑤ 照明の色が通常の蛍光色以外で周囲が明るい場合でも赤外線LEDが作動して映像が白黒になる場合があります。

⑥ メインとなる被写体に補助的にセンサーライトなどの照明を夜間に照射した場合、その光を本機が拾って、本機の赤外線LEDが作動しない場合があります。
この場合、被写体を鮮明に捉える事が出来ない可能性があります。
補助照明がある場合は、かならず夜間時に赤外線LEDが作動するか否か確認を行ってください。
被写体はイメージ通りに捉える事が出来ているか否かを画像で確認する必要があります。

13. 設置工事・準備編4（動体検知距離）



複数の項目で設置条件や注意点を記載しておりますが、ポイントとしては本項はさっと目を通すに留めてあとは本設前に、仮に本機を手で持って設置デモ（確認）を行い、弊害がなければ本設というポイント 流れが一番円滑に設置工事が進みます。

本機は動き検知録画機能（映像上に何か動きがあったときのみ録画を行い）が搭載されています。
この動体検知ですが本機から動きがある被写体までで検知可能な距離があります。
以下はそれを示した表になります。

▼ 表 1

検知距離	小刻み動作 の場合	歩行などの 極端動作	車両など の走行
0m以上 2m未満	○	○	○
2m以上 5m未満	○	○	○
5m以上 8m未満	×	○	○
8m以上 20m未満	×	×	○
※検知感度レベルは最大値100の場合			



ご注意

左の表は目安値です。
設置環境（明るさなど）により、
検知レベルは異なる場合があります。
設置環境毎の事前テストの上、
本設をお願い致します。
またテスト時に正常作動しても、
実運用で動体検知が働かない
場合もあります（どんな動体物が
予測できない為）。
テスト時で動作不安定が見られる
場合は、常時録画での運用をお勧め
します。

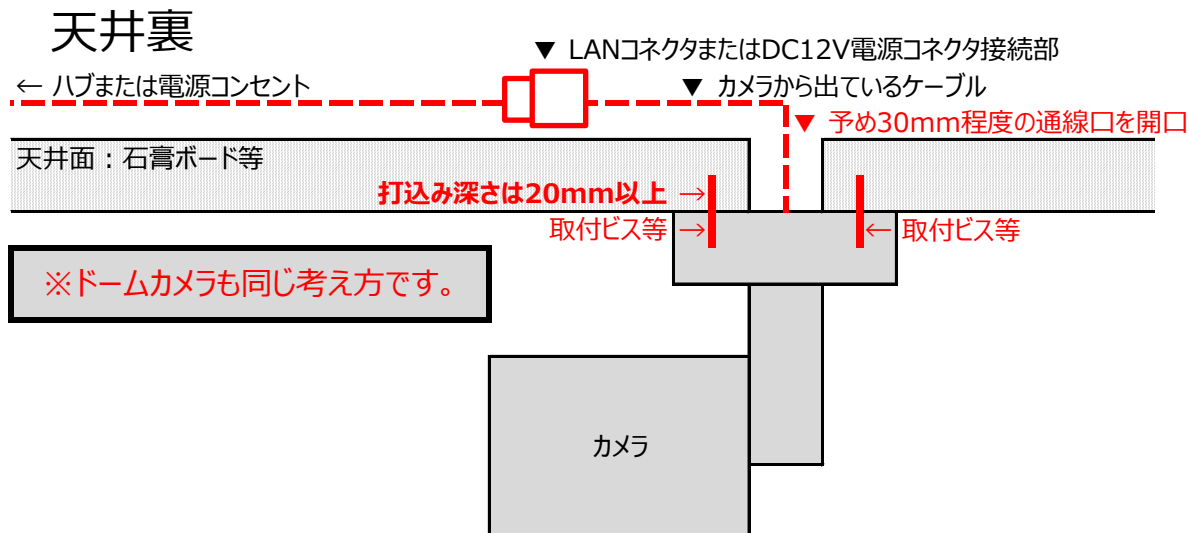
これらの動体検知可能距離も、設置位置検討材料になります。

14. 設置工事・準備編5（配線で天井裏隠ぺい配線か露出配線かの検討）

① 隠ぺい配線の場合

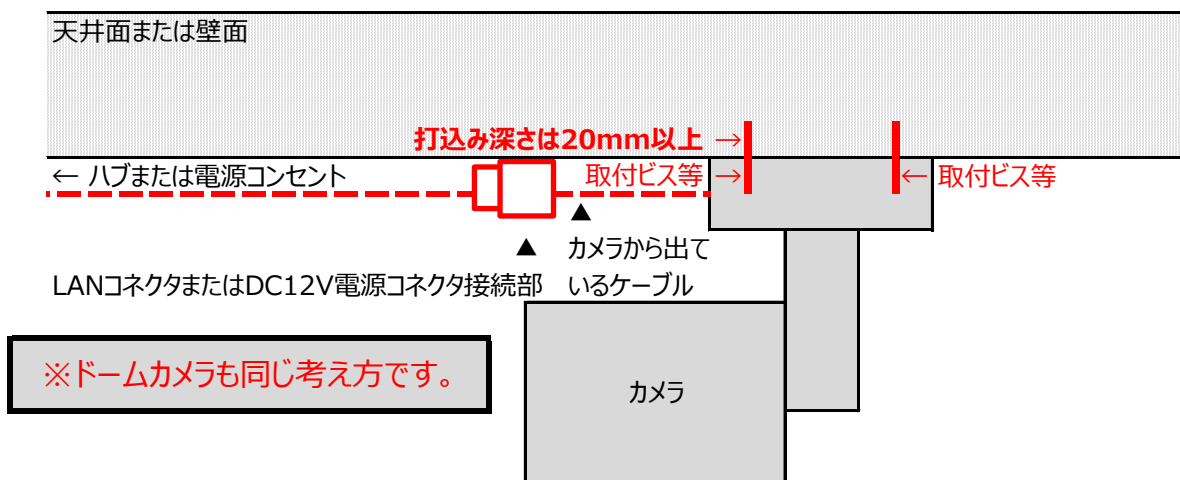
ケーブルが人目には触れないので化粧的には一番最適な配線方法です。
また切断などのいたずらも防止出来ますが、本機設置面裏側が空洞である必要があります。

▼ ビル・オフィス・店舗などの場合の例



② 露出配線の場合

上記①のように、天井裏スペースがなく、設置面（天井面や壁面）にケーブルを這わせる方法です。
この場合ですと、ケーブルが人目に触れてしまうので、化粧的に難点があります。
ケーブルを隠すには、屋内の場合はプラスチックモール、屋外の場合はPF管で隠ぺいする方法があります。



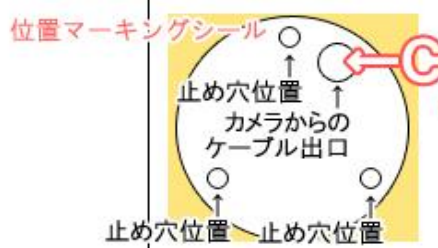
●STEP1：ケーブル外出し方法

天井面への設置方法でケーブルを露出配線にするか、天井裏隠蔽配線にするかを決定してください。露出配線の場合はケーブル入線スペース（写真1ーA部）を利用してケーブルを逃がしてください。天井裏隠蔽配線の場合は、本機からケーブルが出ている位置を考慮（写真2ーB部）して天井面を開口してください。

本機を設置するには同梱のいたずら防止ビス専用ドライバーで3箇所（写真3）を十分に緩めると、中間の青いゴムパッキンを境に本機カバーを開ける事が出来ます（写真4の状態になります）。



止め穴位置や本機からのケーブル出口部分などの位置は、写真「位置マーキングシール」を取付面に貼り付けて、マジックなどでマーキングすると、下穴などを開ける場合はスムーズに施工出来ます。但しC部分を使う場合は最終的には30mmの開口が必要です。



●STEP2：設置面への固定・取付



本機裏側を見ると写真5のように取付用のビス穴が3箇所あります。写真6のように、本機を天井面に付けながら3点をビスなどで止めます。

（※屋外に設置する場合は次々項の

「屋外設置（防水対策）について」も併読してください。）

※ビス穴は5mmなので止めビス類太さは4mmが適切です。



**重要
固定作業**

▼ ビスなどの固定時のご注意

メンテナンス性・LANコネクタ取り出しが簡単になるプルボックス施工がお勧めです。別項「プルボックス施工参照」。



設置面の材質によりビスなどの止め部材の選定が必要です。設置面の材質により止め部材を変えてください。尚、同梱しておりますビスは設置面が木板の場合のみ使用してください。以下は材質によつての適切な止め部材例を示します。

木板：同梱の木ビス他
石膏ボードの場合：ボードアンカー、壁ロック、バットハンガー
コンクリ等の躯体：コンクリートビス（要振動・ハンマードリル）
中空壁の場合：バットハンガー

当止め穴は5mm3点ですのでビスの太さは4mmが適切です。同梱の木ビス以外はお客様にてご調達ください。止め部材の選定を誤りますと落下・脱落の危険性があります。

屋外設置の場合はサビ防止の為、ステンレス製止め部材をご利用ください。

●STEP3：角度調整方法

▼ 以下の方法でそれぞれの向き・傾きかど調整出来ます。



ドームカメラカバーを外した状態で調整します。

ドライバーなどの工具がなくても、手動で調整可能です。

ライブ映像を見ながら調整を行ってください。

●屋外設置（防水対策）について



重要

ブルボックス施工時はブルボックス箱部分へ同じ措置を行ってください。

本機は前面からに対しては防水仕様になっていますが、写真7のように、設置面は取付用のビス穴とケーブル出口があるので、設置面から水の侵入の恐れがある場合は、シリコンコーキングで防水対策をしてください。水が本機内部に侵入した場合は、本機は故障します。

※尚、シリコンコーキングはホームセンターなどで容易に調達可能です。

手順1：写真7の取付用ビス穴3点とケーブル出口に、シリコンコーキングを穴が隠れる程度盛ります。

手順2：STEP2のように取付ビスで本機を固定します。

手順3：写真8の4箇所へ少しでもいいので、シリコンコーキングを盛ってください。

手順4：可能であれば数時間本機カバーを開けてコーキングが固まるのを待ちます。

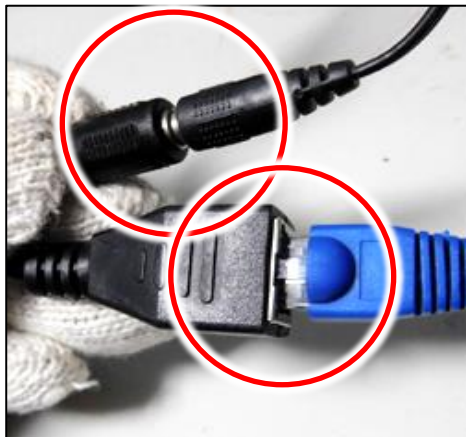


16. 設置工事・コネクタ関係の接続編

① 接続方法

今までの施工工程で、予め配線してあるケーブルのコネクタと本機のコネクタを接続します。

▼ 付属のACアダプタを利用し電源を本機に供給
モニタリングの為に、LANケーブルを接続する場合



▼ PoE給電ハブからの本機への給電の場合
LANケーブルのみ接続



※ モニタリングしない場合は、LANケーブルを接続しなくても運用可能です。

② 屋外の場合のコネクタ接続部の処理方法

上記①のように本機は必ず、

- ・ ACアダプタからの電源のケーブル
または
- ・ PoE給電または通信のみのケーブル(LANケーブル)

のどちらかを接続する必要があります。

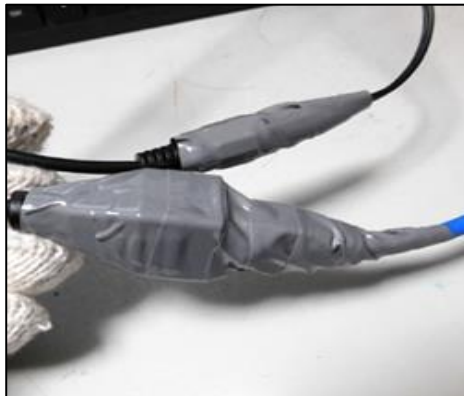
この時、当然本機とのコネクタ接続部分が発生します。

更に気を付けなければいけないのが、屋外設置の場合にコネクタ接続部の処理の仕方です。

禁止事項として水に濡れてはいけない為、本機を屋外に設置する場合は、

【P27】-「17. 設置工事・応用編（ブルボックスを使用した施工方法）」を推奨します。

また推奨ボックス設置が何らかの理由により設置出来ない場合や、屋外で水がかからない軒下設置の場合は、下記写真のようにビニールテープで接続部を厳重に保護してください。



ビニールテープは文房具用ではなく電気工事
用をご利用ください。
ホームセンターなどで容易に入手出来ます。

ご注意

③ LANコネクタが開いている状態での運用の場合

本機への接続がアダプタのみの場合で無人運用時、LANコネクタは空き状態になります。
このような場合、【P9】-「②[C]」のように付属（出荷時はLANコネクタに装着されています）のカバーを必ず装着してください。

17. 設置工事・カメラ取付編（プルボックスを使用した施工方法）

屋外設置の場合、ケーブルを隠蔽できる状態であれば心配はありませんが、ケーブルを隠蔽出来ない場合は、カメラとケーブルの接続部が露出してしまいます。

本項のようにプルボックスを使用すれば接続部を完全に隠蔽出来、且つメンテナンス性にも優れています。

本項でご紹介するのはあくまでもお勧めの施工方法です。

●プルボックス施工・STEP1

以下のようなボックスを使用します。
当社でもご用意可能です（当社加工費含・別売り）。
推奨するプルボックスは

- ボックスメーカー：未来工業
- 名称：PVK ボックス（防水タイプ）おねじキャップ付
- 製品型番：PVK-ALNPM（ミルキーホワイト）

です。下記写真はボックスの図面・写真です。

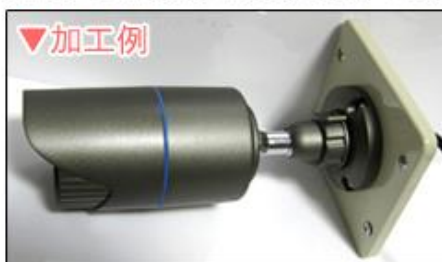


類似品はホームセンター電気材料コーナーまたはネット販売で入手可能です。

プルボックスは当社でも加工・組立、付属品付で販売しております。

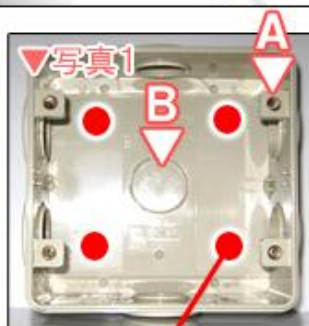
●プルボックス施工・STEP2

このプルボックスのフタを以下のように加工します。



▼加工例

フタ側にカメラ止穴を3点と中央に30mmの入線口1点。
ステンレス鍋頭・首下30mmのビス3本
ステンレス4mm用平ワッシャー3枚
ステンレス4mmナット3個
でフタと連結します。



▼写真1

次にボックス内部に左写真のように5mm程度の穴を4点開けて、ボックスを設置面に固定するビス穴を作ります。
この5mm程度の穴を開ける時のポイントは、フタ・ボックス固定するA部分のネジ穴、今から開ける穴が被らないようにしてください。
設置面内側からケーブルが入る場合、Bが切込になっていますので、ドライバーなどで叩くと簡単に穴が空きます。

底面に5mm程度の穴を4点開ける。

●プルボックス施工・STEP3



前項の写真1のボックス本体をビスなどで固定します。
当社のボックス（加工済・付属品付）の場合は設置面止め部材として、

ステンレストラストッピンビス・首下40mm 4本



※重要※

が同梱されています。

但し、設置面により、止め部材を変更する必要があります。
以下は使用例です。

石膏ボードの場合：ボードアンカー、壁ロック、パット・ITハンガー
コンクリート等の躯体：コンクリートビス、ノンプラグ

ビスの太さは4mm が適切です。
同梱のビス以外はお客様にてご調達ください。
止め部材の選定を誤りますと落下・脱落の危険性があります。

●プルボックス施工・STEP4



左写真のようにケーブルをボックス内に入れ込み、接続します。
写真の様にケーブルを収納してカメラ側のフタを被せてください。



PF管という電気材料にケーブルを通すとケーブルが完全に保護出来ます。
簡易的にケーブルを保護する場合（ご家庭やPF管設置が技術的に困難な場合）は踏まれないようなルートを確保してください。



18. 日頃のメンテナンスについて

継続運用していますと、レンズ部の汚れが付いて映像が不鮮明になったり、録画が正常にされているか否かの確認が必要です。

お客様にて日頃の最低限のメンテナンスをされる事をお勧め致します。

① 通電確認と外観清掃：目安 6ヶ月に 1 回

通電確認は【P8】-【I】「電源供給中ブルー点滅LED」を目視確認してください。

② レンズ部の清掃：目安 6ヶ月に 1 回

本機のカバー部のガラス面を清掃します。



湿った布で拭いてください。
その後、乾拭きしてください。

③ 正常に録画されているかどうかの確認：目安 1ヶ月に 1 回

録画が正常にされているかどうかの点検です。

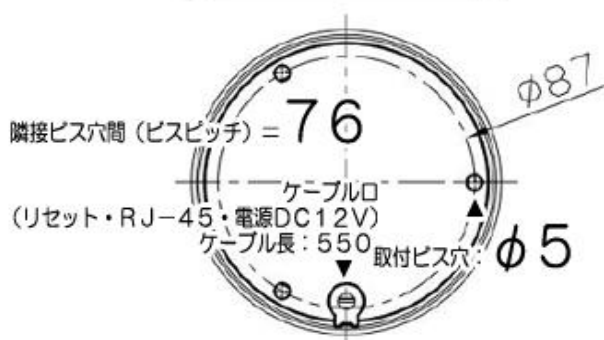
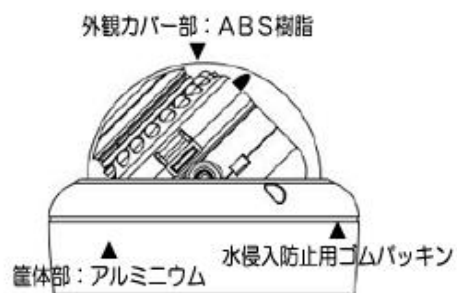
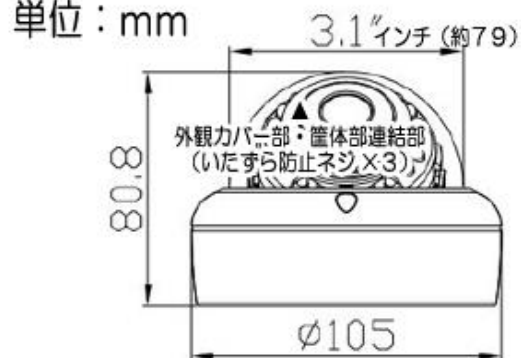
尚、microSDカードは消耗品の為、保証書記載の保証期限後は交換をお勧め致します。

点検方法は以下の2通りです。

- ① 本機よりmicroSDカードを抜いて、パソコンで録画映像を再生する方法。
→別紙説明書「パソコンアクセス編」【P40】参照。
- ② 本機とパソコンをLANケーブルで接続して、運用ソフト「HiP2PClient」上で録画映像を再生する方法。
→別紙説明書「パソコンアクセス編」【P19】参照。

●外観図

単位：mm



- ボディーカラー：ホワイト
- 重量：320g (ケーブル部除く)

20. 機器仕様

型番	ES-CD137SW/C
外観	
保証期間	3年(microSDカード含む)
電源供給中ブルー点滅LED	搭載
監視目安距離	2~5m
外観寸法/重量	高80.8mm-底105mm/320g
カメラ入力電源 / 消費電力	DC12V(PoE方式・アダプタ電源両方対応) / 1A / 12W
外観材質	アルミニウム, カバー部: アルミ+ブラ
国際保護等級 / 設置可能場所	IP66 / 屋内・屋外 (防雨仕様)
視野角 / 搭載 CCD/F値	水平約67°垂直約53° / 1/3" CMOS Sensor 3.6mm / カラー時F1.2
赤外線LED数/投射距離/起動照度	15個 / 15m / 0Lux
SDスロット/最小・最大容量	スロット×1 / 32GB~128GB
ライブ・録画映像フォーマット	H.264
ライブ・録画映像解像度	200万画素(1980×1280)・1080P
ライブ・録画映像フレーム/ビットレート	1-25FPS / 32Kbps-6144bps, CBR/VBR
ネットワークプロトコル	TCP/IP, HTTP, TCP, ICMP, UDP, ARP, IGMP, SMTP FTP, DHCP, DNS, DDNS, NTP, UPNP, RTSP
イーサネット/ONVIF/P2P機能	RJ-45 × 1 / 2.0 / 有
WindowsMediaPlayer互換性	付属ソフトにてAVIファイルに変換後可能
ビデオ信号入出力 / 音声信号入出力	なし
使用温度範囲 / 使用湿度範	0℃ ~ +40℃ / 90%以下
対応OS/ 対応ブラウザ	Windows7,8,10
主要機能	microSDカード録画, 動体検知録画, 動体検知静止画記録 スケジュール録画, microSDカード録画, ネット経由アクセス, 夜間時暗視

21. アフターサービスについて

1. 日頃のお手入れについて

6カ月に1度は、本機外観の清掃をお願い致します。

2. 本機に異常が見られたとき

① 保証期間内に異常が見られた場合、別紙保証書の保証規定をご覧ください。

② 保証期間外に異常が見られた場合、一度当社へご連絡をお願い致します。

当社は安価型システム販売専門としている為、安価型商品を修理致しますと、以下のような項目の費用が発生し、最終的には新品価格と同等になります。

- 1) 修理部品（症状により様々）
- 2) 修理工賃
- 3) 諸経費
- 4) 配送費

従いまして、原則修理は受け付けておらず、新品への更新をお勧めしております。
但し、不具合の症状の中には本機異常以外の理由で、

例1 : 映像にノイズ発生。
⇒実は、コネクタ接続部の接触不良で本機には問題なし。

例2 : 映像が映らなくなった。
⇒実は、モニターの電源が入らなくなっていた。

という事もありますので、機器点検は当社にて受け付けております。
お客様より当社への発送費用は元払い（お客様のご負担）でお願い致します。
以下に、軽微な症状例を明記致します。

例1 : ケーブル類の接触・断線寸前（カメラ関係でよくある症例）
⇒ 修理可能

例2 : 内部バッテリー、HDD異常（レコーダー関係でよくある症例）
⇒ 修理可能

このように、軽微な症状ですと修理は可能です。

点検ご依頼の際は、点検結果をご報告し、軽微な症状に対する修理が可能と判断させていただいた場合は、お見金額も提示させていただきます。

点検対象商品を当社からお客様へお送りする際の費用は、お客様ご負担でお願い致します。
尚、点検は無料にて行っております。

廃棄物処理は受け付けておりませんので、当社へお送りしていただいた商品は必ずご返送させていただきます。

代替機の貸し出しは一切行っておりませんので、予めご了承下さい。

3. その他ご不明な点に付きましてはお問い合わせ下さい。

合同会社エレックスシステム

TEL : 045-317-9873

FAX : 050-3156-3747

e-mail : info@elexsystem.co.jp

修理のご依頼や保証期間内のご返送先は、
保証書・納品書に"記載されています住所ではありません。"
ご依頼・保証ご請求の際はメール・お電話にてお問い合わせ
下さい。別途ご案内致します。

Copyright © ELEX SYSTEM. All Right Reserved.